
君の寝顔に魅せられて

なんじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の寝顔に魅せられて

【Nコード】

N4108B

【作者名】

なんじ

【あらすじ】

仕事疲れで、転寝する高木に危機が迫る???

由美は食事の約束をしていた佐藤を迎えに一課に行った。
しかし、彼女の姿は無い。

”行き違っちゃったか”

一課の部屋にいるのは

無防備に机につっぱして眠る高木だけであつた。

肩にかけられた上着、机の上の缶コーヒーとメッセージ。

由美はにやりと笑つた。

「このシアワセ者があゝ」

シアワセは皆に分け与える物だと、由美は思つた。

さつそく携帯で高木の写真を撮る。

「メッセージは、どうしようかな？」

”あぶない婦警より、愛を込めて”

なぐんちゃって。ちと寒いかな」

そう言いつつも、写真とメッセージを交通課の友人達に一斉送信した。

「美和子は、知らないのよね。」

高木君つて、私たち交通課の間じゃあ、

”永遠のキープ君”

として人気あるつて。

ちよつとは、あせらなくちゃあ、美和子」

由美は、佐藤を捜しに部屋を出た。

白鳥が一課の部屋に戻ると、

そこにいるのは無防備に眠る高木だけだつた。

残った仕事をすぐに片付けるつもりで白鳥だったが、

なぜか高木の寝顔から目が離せない。

いつの間にか、自分が握り締めている物に気づき

白鳥は慄然とする。

”このまま、彼と一緒にいてはいけない”

白鳥は、仕事は明朝にする事にして部屋を出た。

その手には、黒と赤の油性マジックが握り締められていた。

あのまま、あそこにいたら、とんでもない事をしてしまうところだった。

「しかし、彼の寝顔を見ていると、

なぜ、そこに、めがねとひげと、パッチリした目を書いて、

ほっぺたに真っ赤な渦巻きを書いてしまいたくなるんだろう？」

千葉が、一課の部屋に戻ると、

真っ先に目に付いたのは、高木の机の上の缶コーヒーであった。

「いただき！」

飲み干してから、メッセージに気がつく。

「あ、まずい！」

慌てて、同じ缶コーヒーを買いに行こうとした、

千葉の視線が、高木の幸せそうな寝顔の釘付けになる。

千葉は、缶コーヒーの代わりにインスタントコーヒーをマグカップに入れる。

そこに山盛りのお砂糖を、一杯、二杯、三杯、四杯、五杯……

かき混ぜながら、千葉は、このコーヒーを飲んだ時の高木の顔を想像し、笑顔になる。

「さあ、帰ってもやる事ないし、高木の目が覚めるまで、こっそり張り込みしよう」

人の気配で目覚めた高木の前に、藤巻警部が立っていた。

「よく眠つとたな」

高木は、慌てて、姿勢を正した。

上着がずり落ちる。あわてて、つかみながら思う。

”誰がかけてくれたんだろう？”

藤巻の視線の先のメッセージに気づき

高木は顔を赤らめた。

「お前は、美和ちゃんの入れてくれたコーヒーを前にして、居眠り。俺は茶も飲まず、会議だったんだよな。

いいご身分だな」

藤巻の迫力に押されて、高木はコーヒーカップを藤巻に差し出した。

「冷めてるかもしれませんが、どうぞ」

藤巻はうれしそうにカップを受け取った。

その時、高木の視野の端に千葉の姿が入った。

部屋の入り口で驚愕の表情を浮かべた千葉はあつという間に姿を消した。

不審に思う間も無く、高木はその理由を体中で知った。

「千葉ー！」

立ち上がった、高木は、千葉を追った。

コーヒーを滴らせながら、廊下を覗いた。

”そこには、黒洞々たる夜があるばかりである。

下人の行方は誰も知らない”

(完)

（後書き）

これも某所に置かせていただいていた、ものです。
手直しあります。

そのサイトに投稿されていたイラストが元でこのお話が産まれました。

最後は、格調高く「羅生門」を引用させていただきました。
（^^）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4108b/>

君の寝顔に魅せられて

2010年10月10日23時43分発行